

# 会員通信

2023.6  
Vol.42

- ネットワーク会員に聞きました! … 1  
「ネットワーク会員の検索履歴」
- 第34回 研修会報告 …… 2・3
- 漢字教育サポーター研修会報告… 3
- サポーターリレーコラム …… 4
- 迷う漢字特集 第2弾 …… 5
- 漢字の小径(コラム) …… 6
- 合格体験記・書籍紹介 …… 7
- 投稿募集 …… 8

## ネットワーク会員に聞きました!

今回のアンケートテーマは「ネットワーク会員の検索履歴」です。

ネットワーク会員の皆さまに  
教えていただきました!(回答者:46名)

### 関白(かんぱく)

日本史の教科書をふと見ていたときに、なぜこの字の組み合わせなのか、気になったから。天皇に寄せられる情報をすべて「関かり(あずかり)」、天皇に「白す(もうす)」ことで政治に関与できていたのが理由だとわかった。(30代)

「白」に「もうす。告げる」という意味があるのは意外ですよ。この意味を知ると、「告白」や「白状」に「白」という漢字が使われているのも合点がいきます。



### 盗人上戸(ぬすびとじょうご)

日課のランニング中に暇なもので、脳内で四字熟語を50音順に出してみたのですが「ぬ」でどうしても途切れてしまいました。案の定、他に比べてかなり少なかったのでもさやかな発見でした。(40代)

意味は「酒も甘いものも好む人。両刀遣い」。ランニング中に四字熟語を50音順に出すとは、体力と頭脳の両刀遣いですね!



### 這う這うの体(ほうほうのてい)

仕事が忙しい日、帰宅して子供に「ほうほうのていで帰ってきたわ〜」と言ったら「ホーホーって何? フクロウ?」と聞かれて、自分も知らないことに気付いて調べました。(50代)

意味は「あわてふためいて、やっとのことで逃げ出るさま」。漢字にすると「ホーホー」の正体が「這うようにして歩く」であることがわかりますね! お子さんのツッコミ、ナイスです!



### 甗(ユウ・ユ)

博物館(兵馬俑展)でこの漢字に出会い、そのリンゴのような可愛らしい形に一目惚れました。ただ、その意味は「お酒を入れる容器」だそうです。(40代)

未知の漢字に出会うと、つい調べたくなりますよね。このような漢検出題対象外の漢字も複数の方から寄せられました。



### 真挚(しんし)

知っていたはずなのに「摯」の字をど忘れしていました。この漢字は「真挚」以外ではあまり使わないからだと気付きました。(20代)

特定の熟語でしか見ない漢字、ありますよね。私は最近「効果観面」の「観」を調べました。



### 戈(ほこ)

福岡で古代の「銅戈の鋳型」が発掘されてニュースになっていました。そこで、同じホコでも「銅矛」と「銅戈」はどう違うのか気になって調べました。ホコの取り付け方が、棒に対してまっすぐ差し込むのか、横向きに取り付けるかで表記が変わるそうです。(20代)

同じ「ホコ」という名の武器ではありますが、特徴によって漢字表記が異なるのですね。



他にもこんな  
回答が来ていました



### 追儼(ついな・おにやらい)

漢検一級の勉強中に出会った。  
【意味】昔、宮中で大みそかの夜、疫病の悪鬼を追い払った儀式。

### 定礎(ていそ)

街中でよく見るが、意味を把握していなかったから。家族間でも話題になった。  
【意味】建築工事の初めに、土台石を据えること。建築工事を始めること。

### 白州(しらす)

テレビの歴史番組で出てきた。  
【意味】江戸時代に、奉行所で訴訟を裁いたところ。

### 反閤(へんぱい)

読んでいた小説に出てきた。  
【意味】日本芸能の特殊な足の踏み方。

※文面は、ご投稿内容をもとに編集しています。

### 編集部より コメント

ご回答ありがとうございました! 「気になったら調べる」習慣があると、知見が広がっていきますね。回答者の6割がWebで調べていて、辞書が3割、その他の本が1割という結果になりました。また、これらを状況に応じて使い分けている方も多数いらっしゃり、Webと辞書にはそれぞれの良さがあることが見受けられます。こちらで載せきれなかったご回答の一部はメルマガ等で紹介予定です。

次のアンケートテーマは「そろそろ行きたい世界の難読国名・地名」です。回答方法は8ページをご覧ください!

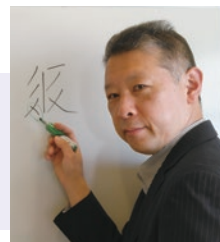
## 研修会 報告

# 第34回 会員向け研修会を開催いたしました。

2023年4月9日(日)に東京都千代田区にて、会員向け研修会を開催し、約90名の方にご参加いただきました。ご講演内容を簡単にご紹介いたします。

## 「漢字の発想・西夏文字の発想」

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 荒川 慎太郎 教授



### 1. 西夏文字の歴史

西夏文字とは、11～13世紀に中国西北に存在した党項族(注1)を主とする国家、西夏で使用されていた文字です。西夏語の系統は「チベット・ビルマ語派」に属します。字形は漢字と似ていますが、実は別物という「疑似漢字」に分類されます。西夏は、現在の銀川に興慶府という首都を置き、沙州(敦煌)やハラホトを主要都市とし発展しましたが、13世紀初頭にモンゴルの侵攻により滅亡しました。国家滅亡後、民族が離散・漢化したこと、この地域

の民族が回族(イスラム系)に変わってしまったことで、西夏文字は使用が途絶えることとなりました。

西夏文字の記録は16世紀が最後であり、話者も使用者もいない状況で、直系の後裔言語もありません。死言語と化した西夏語ですが、漢語・チベット語から翻訳された資料や、西夏文字の発音辞典など有益な資料が残っていたことで、解読が進みました。なお西夏に関する重要な資料は、現在ロシアがほぼ独占しています。

#### 西夏領域の現在



#### 西夏と主要都市



『NHK大黄河』二巻(NHK出版,1986)p.241図を加工

### 2. 西夏文字の誕生と言語との関わり

西夏文字は皇帝の命により創製され、当初から楷書体の形で、1036年に約6,000字が一斉に公布されました。そのため、権威性が高く、体系性のある非常に人為的な文字となっています。膨大な文字群が短期間で生み出されたのは、「～しない」+「忘れる」=「念じる」のように段階的な派生や、「部首法」を用いて作られたことが背景にあると考えられます。

西夏語は漢語のように声調があり、有気音と無気音(注2)の区別があります。文法的には、「てにをは」のような格助詞があるなど日本語に似ている点もあります。西夏文字は語彙・形態の特徴に合わせて、1文字=1音節=1語かつ縦書きという、漢字に極めて近い「表語文字」に分類でき、同音異字も非常に多く存在します。

注1：党項族…タンブートとも。一般には「チベット系」とされます。6世紀から13世紀頃まで中国西北に活躍しました。

注2：有気音、無気音…中国語の子音には清音と濁音の区別がなく、その代わりに「有気音」と呼ばれる呼気をともなった音と「無気音」と呼ばれる呼気をともなわない音の区別があります。

### 3. 西夏文字の字形の特徴

一般的に西夏文字の字形は難しいと認識されており、その理由は3つ挙げられます。

1つ目は基本語彙を表わす字形が難しいことです。漢字では、「日」「人」などの単純な概念・基本的な語彙は少ない筆画で記されることがありますが、西夏文字の場合はそうとは限りません(図a)。

2つ目は単体字が少ないことです。数少ない単体字として「人」があります(図b)。(図a)の「人」とは違い、比較的簡単な字形ですが、これは「(仙)人」など特定の語彙でしか登場しません。使用頻度の高い字は画数が少ない単体字の方が便利のようですが、西夏文字は字形を複雑にする傾向があります。

3つ目は字形に象形性がないことです。非常に人為的に「字形と意味の結びつき」が考案されたため、漢字との字形的な共通性は確認できず、絵や記号的な図像の段階もありません。象形性や規則性がないものの代表例として、「数字」があげられます(図c)。個々の部首に象形性は認められない一方、中には「人」+「馬」=「乗馬する」のように、上下の配置位置に象形性を感じるものもあります(図d)。

前述の通り、西夏文字は形が複雑ではありますが、基本的な筆画が漢字とほぼ同じであり、運筆も左上から右下におこないます。また、「偏・旁・冠・垂・繞・構・脚」を使

用した配置パターンは漢字と同じです。しかし、その種類は少なく、例えば「構」と言っても、漢字の「はこがまえ」「くにがまえ」のようなパターンは、西夏文字にはありません。このように筆画や偏旁だけに注目すると、漢字よりも簡素化していることがわかります。

しかし、中には漢字の発想にはない配置パターンもあります。例えば西夏文字の「繞」には、既存字が偏に位置すると最終画(底部右端)が延びて、繞の形に変化するパターンがあります(図e)。そこには「繞」が「声符」として機能することもあり、西夏文字独特の発想が確認できます。

また、西夏文字は漢字にはあまり見られない、独自の造字方法が存在します。まず、「双」のように左右に同じ構成要素を並べるのが一般的です(図f)。漢字では「林」などがありますが、その例は少数です。また、「実」のように上下に同じ構成要素が並ぶこともあります(図g)。ただし、「森」のように3要素以上複合するものではありません。

左右の要素を交換する造字法もあります。例えば、「人」の左右の構成要素を入れ替えると、「心」になります(図h)。漢字ではあまり見ませんが、西夏文字では非常に多い造字法です。このように西夏文字は漢字とは違った独自の発想を見せており、漢字を多方面から考える際のヒントを提供してくれます。

図a 𐵑 日 𐵑 人

図b 𐵑 人

図c 𐵑 「一」、𐵑 「二」、𐵑 「三」、𐵑 「四」、𐵑 「五」

図d 𐵑 「人」が上、𐵑 「馬」が下→𐵑 「乗馬する」

図e 𐵑 'kyu 「耳飾り」、𐵑 'kyu 「蔬菜の名」←𐵑 'kyu 「居」(音写)

図f 𐵑 双

図g 𐵑 実

図h 𐵑 心

### 漢字教育サポーター 研修会報告

- 日 時：2023年4月9日(日)  
10:00~11:30
- 参加者：34名
- 研修会内容：教えて、久保先生!&  
サポーター交流会
- 講師：立命館大学白川静記念  
東洋文字文化研究所  
久保 裕之先生

久保先生が行っている漢字探検隊の目的やこれまでの活動内容、企画・運営の流れについてお話を伺いました。参加者の方からは、「自分で活動を企画するときのポイントをわかりやすく教えていただき大変参考になりました」とのお声をいただきました。



後半の交流会では、創作漢字を考えるレクリエーションを行いました。お題を見て創作漢字を一字書き、班の中でその漢字のお題が何なのか、皆さんに考えていただきました。多くの斬新な創作漢字に盛り上がりしました。



# 漢字教育サポーターリレーコラム

第18回

このコーナーでは、リレー形式で漢字教育サポーターの皆さまによる漢字や漢字教育活動に関するコラムを掲載します。

第18回は東京都にお住まいの坂本 陽子さんにご執筆いただきました。

## 井の中でおもしろきこと漢蛙

かん がえる

第1期漢字教育サポーター 坂本 陽子

塾講師になりたての頃、「先生、木乃伊<sup>みい</sup>って読める?」。小学生から出された問題に答えられなかった。これが漢検との出会いだ。3級から順に受けていき、準1級に合格した時、客員研究員(漢検生涯学習ネットワークの前身)に応募し、宿泊や毎年の研修を通して、学生時代とは全く違う漢字<sup>たの</sup>の楽しみ方を知った。とはいえ、塾は結果を求められるところ。漢検も合格することが到達点だ。算数は好きだけど国語に興味はない。覚えることがどうも苦手だ、といった、学習に悩みがある子供たちを励まし、検定を受けてみる気持ちにさせ、学習計画を立てて実行させる。それが私の日常だ。小さな塾ゆえ、一通り全ての科目に関わっており、どの科目にも漢字で覚える用語がある。数学ですら「平方根」「累積度数」など、言葉の理解そのものが、計算に影響を及ぼすこともある。社会科も漢字学習の要素が多いが、特徴をよく捉えている点で、特に理科用語と漢字の相性は良い。漢字の探求もしながら、かつ、結果も出す。目指す講師像だ。

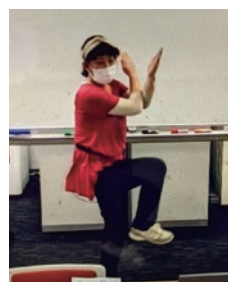
勤務する塾は私自身が通った母校。塾長夫婦が算数の時間なのに突然、アコーディオンオルガンとカレンダーの裏に手書きされた歌詞カードを取り出し、「さあ、歌おう」と言い出すような授業だった。当時は恥ずかしかったが、いまや私が「さあ、古代文字体操

をやるよ!」と、子供たちを立たせる側に回っている。

漢字を通して知り合った方々とは、友人とも同僚とも違う、なんとも不思議な間柄だ。

しかし、力を合わせて作品づくりをしたり、イベントで一緒にしたりする中で、人生を通して通い続けられる学校を見つけた気がする。

時々、修行のために、広大で深遠な、漢字の海の渚に立ってみる。目がくらむ。私は大海と大空に憧れながら、これからも井の中から子供たちを送り出す。



坂本さんからのご紹介で

今回は愛知県の伊藤有平さんのコラムを掲載します。お楽しみに!

## 漢字クイズ

### 難読地名

### 石川県

今回は、石川県の地名を紹介します。  
以下の3つの地名は何と読むでしょうか。

- ① 門前町窠 (輪島市)
- ② 主計町 (金沢市)
- ③ 行町 (白山市)



解答は  
7ページへ

## 1級編

## 漢字は迷うことだらけ… 第2弾

## でも、漢検ではルールを知っていれば迷うことなし！

漢検受検の際、出題される語に対してどの漢字、どの読みで解答するのが適切かは、問題文の内容・形式や、設問に付されている条件などによって異なる場合があります。

せっかく文脈を正しく読み解いて解答しても、答え方を誤ると得点になりません。  
答え方を指定している設問文までしっかり読んで、本番で実力を発揮しましょう！

設問文に焦点を当てて最近の1級問題を紹介します。

## 書き取り 問題編 ※問題形式と設問文は実際の検定と異なる場合があります。

次の下線部分のカタカナを漢字で記せ。国字で答えること。

1. 真珠の目方をモンメで量る。

「モンメ」は「文目」も見かけるが、  
ここでは不正解？

2. フモトまでまだ三里はある。

「ふもと」は「麓」と「禁」、  
どちらを書けばいい!?



## ポイント

設問文に「国字で答える」指定がありますので、「勿」と「禁」が正解！  
設問文はしっかり最後まで読んでから解答しましょう！

## 解説

「国字」とは日本で作られた漢字で、「和字」とも呼ばれます。  
日本漢字能力検定審査基準では、1級・準1級ともに「国字を理解していること」を求めています。漢和辞典によって扱いが異なるものも存在しますが、漢検で出題の対象とする国字は『漢検要覧1／準1級対応』で確認できます。実は、2級以下で出題対象となる常用漢字にもいくつか国字がありますよ！



## 読み 問題編 ※問題形式と設問文は実際の検定と異なる場合があります。

次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

1. 海豹

ひらがな表記「あざらし」「とりかぶと」  
以外は不正解!? それともカタカナ表記  
「アザラシ」「トリカブト」も正解になる？

2. 草烏頭



## ポイント

これらの標準解答は「1. あざらし」「2. とりかぶと」ですが、  
実はカタカナでも正解です。

## 補足

日本漢字能力検定において、設問文に「ひらがなで記せ」といった指示がある場合、カタカナで解答すると不正解になりますので、設問文をよく読む必要があります。上の問題は設問文に「ひらがなで記せ」といった指示がないので、解答はひらがな・カタカナのどちらで書いても正解と判断されます。



## 二つの「蜃」

漢字研究の大通りから一歩わきみちに踏み込めば、また違った景色が広がっています。このコラムでは漢字文化研究所の研究員が「漢字の小径」をご案内します。

漢字文化研究所とは、日本文化の側面から日本の漢字をつまびらかにする調査研究等を行うために、日本漢字能力検定協会内に置かれた組織です。

漢字文化研究所・研究員

伊藤 令子



砂漠や海上で、遠くのものが見えるような現象を「蜃気楼<sup>しんきろう</sup>」といいます<sup>1</sup>。しかしこの現象をなぜ「蜃気楼」という漢字で表すのでしょうか？ 司馬遷の『史記』「天官書」には、「海旁蜃<sup>しん</sup>（蜃）氣象樓臺<sup>てんかんしよ</sup>（海のそばでは蜃気が楼閣を形作る）」という一節が見えます。同様の一節が、班固編『漢書』「天文志」にも引かれており、「蜃」の気によって海で楼閣の姿が形作られるという発想が、現在の「蜃気楼」という言葉に繋がっていると思われます。

では「蜃」とは何でしょう？「蜃」と名のつくものが登場する古い文献としては、秦の呂不韋<sup>りよふい</sup>の命で編纂された『呂氏春秋』が挙げられます。『呂氏春秋』は、「先秦の諸学説・伝説などを集めた書」<sup>2</sup>とされていますが、その巻十「孟冬<sup>もうとう</sup>」にて、初冬の様子を記す中に、「雉入大水爲蜃<sup>きじわいすい</sup>（雉が淮水<sup>3</sup>に入り蜃となる）」との句があり、後漢の高誘はこれに「蜃、蛤也（蜃とは蛤である）」と注をつけています。また明の本草学者・李時珍編『本草綱目』巻46「介之二」「車螯<sup>しやごう</sup>（二枚貝の一種）」には、唐の本草学者陳藏器の「車螯生海中。是大蛤、即蜃也。能吐氣爲樓臺（車螯は海中に生息する。大きな蛤であり、すなわち蜃のことである。気を吐いて楼台を作る）」との言が引かれています。ここから陳藏器は、気で楼閣を作り出す「蜃」を貝類と捉えているとわかります。

一方李時珍自身は、『本草綱目』内にて、「蜃」と名付くものについて、貝類の「蜃」と、蛟龍<sup>こうりゅう</sup>の「蜃」を挙げています。さらに北宋の陸佃編の訓詁書『埤雅』

巻2に見られる「雉與蛇交而生蜃（雉と蛇とが交わって蜃が生まれる）」の一節や、類書（具体的な書名は不詳）にあるとする「蛇與雉交而生子曰蜃、似蛇四足、能害人（蛇と雉が交わって生まれた子を蜃<sup>しん</sup>といい、蛇のような外見で足が四つあり、人に危害を与える）」、唐の陸禔<sup>りくしん</sup>の「蜃音鼻、即蛟也、或曰蜃也（蜃は音を鼻といい、即ち蛟のことである、あるいは蜃という）」等々の先人の説に基づき、気を吐き楼閣を作り出す「蜃」とは、貝類ではなく、蛟龍（龍の一種）の「蜃」だと論じています<sup>4</sup>。

また『本草綱目』より少し後に成立した王圻編の図入り百科事典『三才図会』「鳥獸五卷・鱗介類」の「蜃」の項目にも、息を吐き出し楼台をなす蜃は、蛟龍のような形状であると記されています。さらに同書では、冬に雉が海に入り変化するのは大蛤の方の蜃であるとしています。

この二つの「蜃」は、日本での「蜃気楼」の表象にも見られ、例えば江戸時代の妖怪画で有名な鳥山石燕は大きな貝が楼閣を吐き出す姿を描いています（『百鬼夜行拾遺』上之巻収録）。他方、同じく江戸時代の寺島良安『和漢三才図会』<sup>5</sup>巻45「龍蛇部」の「蜃」では、上述の『本草綱目』に依拠し、「気を吐いて楼台城郭を形作る」のは蛟龍の「蜃」であるとし、息を吐き出す蛟龍の画を添えています。日本でも「蜃気楼」の「蜃」をどう捉えるかについては、大きく二通りの解釈があったようです。

1 「蜃気楼」は、古くは「蜃楼」や「海市」と称されていた。

2 『呂氏春秋』に関する説明は、新釈漢文大系『漢籍解題事典』「呂氏春秋」より抜粋。

引用元:「りよししゆんじゆう(原文ママ)【呂氏春秋】『漢籍解題事典』」, 新釈漢文大系, Japanknowledge, <https://japanknowledge.com>, (参照 2023-03-14)

3 「大水」の訳は、高誘の注の「大水、淮也（大水は淮水のことである）」に基づく。淮水は淮河を指す。

4 以上『本草綱目』巻43「鱗之一・龍類」の「蛟龍」、及び『本草綱目』巻46「介之二・蛤蚌類」の「車螯」を参照。

「蜃気楼」と「蜃」については、日野巖『趣味研究 動物妖怪譚』（養賢堂・1926年）210～214頁にも詳しい言及が見られる。

5 王圻『三才図会』を手本にして編集された図入り百科事典。

合格  
体験記

## 1級に初めて合格しました！

漢検の最高峰1級に初めて合格した会員の喜びの声を紹介します。

令和4年度第1回検定にて合格することができました。30歳を過ぎてから、趣味で始めた漢検の受検。もともと漢字が好きだった学生時代に2級までは取得していたので、準1級から勉強を再開しました。準1級は一度の挑戦で合格できたので、引き続き1級の勉強を始め、翌年に受けた時には不合格でした。その後、3年を掛けて過去問8年分と『漢検 漢字辞典』と『四字熟語辞典』を熟読し、出題形式毎に分けて自作ノートを作り、2回目を受検しましたが、また不合格でした。しかし、1回目比べて点数は格段に上がったので、苦手な類義語・対義語と準1級以下の配当漢字で構成されている熟語に的を絞り、翌年3回目の受検で合格することができました。

1級の受検では少人数だからかもしれませんが、受検会場に小学生から人生の大先輩までと、特に年齢層が広く感じました。各々が各々の勉強方法で受検当日を迎え、毎回努力の集大成を示すことができる、そんな環境が大好きです。まだまだ満点には遠いので、これからも挑戦していきます。

(宮城県 浅野さん)

## 浅野さんへのコメント

1級合格、おめでとうございます！ご自身に合った勉強法を見つけ、諦めずに分析・対策を続けてきたことが合格に繋がりましたね。出題形式毎に自作ノートを作成する方法は、多くの方の参考になるのではないのでしょうか。

また「努力の集大成を示すことができる環境が大好き」という一言から、楽しみながら勉強をされている姿が想像できました。これからも挑戦されていくとのこと、陰ながら応援しております！

## 書籍紹介

## 『漢字の動物苑 鳥・虫・けものと季節のうつろい』

株式会社岩波書店 2023年発行 円満字二郎著  
本体2,200円+税 【紹介者】東京都 ざぶんさん

とな かい おし どり こう もり はりねずみ みそざい  
馴鹿・鴛鴦・蝙蝠・蝸・鷓鴣……、本書は不思議な表記を持つ動物漢字を古代文字や『広辞苑』に掲載されているイラストを見ながら成り立ちにまでさかのぼり、なぜそうなったのかが大胆に考察されています。これを読めば漢字にも動物にも、大変詳しくなれます。

78の動物漢字の成り立ちやエピソードを、新年・春・初夏・盛夏・秋・冬と6章立てで、1年の季節の移り変わりに従って紹介されており、とても読みやすい内容です。蘊蓄満載の動物漢字の世界を堪能したい方におすすめです。



書籍紹介投稿を募集中！ 漢字・日本語に関する書籍で面白いと感じたものをご紹介ください。  
挨拶文裏面の投稿先までお送りください。投稿内容：①書名 ②著者名 ③出版社名 ④発行年 ⑤お薦めの理由(250字以内)

漢字クイズ  
難読地名  
石川県

## 解答

- ① もんぜんまちうつろ (輪島市)
- ② かずえまち (金沢市)
- ③ あるきまち (白山市)

## 【今回の一字】 窵 (1級)

音：チョウ・ヨウ 訓：ふかい・あで・やか

意味：①ふかい。奥深い。

②奥ゆかしい。しとやかで美しい。「窵窵(ヨウチョウ)」

③あでやか。なまめかしい。「窵冶(ヨウヤ)」

参考：『漢検 漢字辞典[第二版]』・『漢字ペディア』※「漢字ペディア」は登録商標です。

オリジナル漢字クイズ・パズルを募集中！ 8ページの投稿先までお送りください。

# 会員通信への 投稿募集中!

アンケートにご回答、もしくはご投稿いただいた方の中から抽選で3名の方に「今年の漢字」図書カード(500円分)をお送りいたします(当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます)。



次回のアンケートテーマ「そろそろ行きたい世界の難読国名・地名」

右記の二次元コードを読み取るか右記のアドレスを入力し、  
2023年7月17日(月・祝)までにご回答をお願いいたします。

※上記のアドレスにアクセスできない場合はメールにてお知らせください。郵送・FAX・メールいずれかの方法でアンケート用紙をお送りいたします。



## 漢檢®

公益財団法人 **日本漢字能力検定協会**

<https://www.kanken.or.jp/>



**0120-509-315**

月～金9:00～17:00(祝日・お盆・年末年始を除く)  
 ※検定日とその前日の土・日は窓口を開設  
 ※検定日は9:00～18:00

